

# 専門家 TALK

**獣医師** かまくら犬と猫の病院 院長  
**塩谷 香織 先生** (右)

生まれ育った鎌倉で2011年に開業。  
診療の傍ら、飼い主向けの介護教室なども開催。

**設計士** 大和ハウス工業 住宅事業推進部  
東日本住宅設計室一課 主任技術者  
**目賀田 史夫** (左)

一級建築士。自身も犬の大好き。  
猫や犬と暮らす家の提案実績も多数。



健康・安全に暮らせるよう、  
環境を整えてあげましょう

「最期のお世話が  
できるか」まで、  
飼う前にしっかり考えましょう

## 猫や犬が健やかに暮らせる家づくりとは？

猫や犬が健康に、そして快適に暮らすためには、  
どんな環境やサポートが必要なのでしょう。

獣医師と設計士、それぞれの専門家の視点で語ってもらいました。



### 室内にも、キケンがいっぱい！

**塩谷** 近年は猫も犬も室内飼いが増えていますが、家の中にも多くの危険が潜んでいます。例えば若い大型犬に多いのが、おもちゃなどを飲み込んでしまう誤食。小型犬の場合は、些細なことでも骨折につながるケースが多く見られます。他にも配線をかじって感電する事故や、猫だとコンロに飛び乗り火傷をすることもありますね。

#### 室内飼いに多い事故

若い大型犬に多い  
誤飲

小型犬に多い  
骨折

配線をかじって  
感電

キッチンまわりで  
火傷

#### 【その他】

- 廊下で滑って転ぶ
- しっぽを扉に挟まれる
- お風呂で溺れる
- 床暖房で脱水症状を起こす など

**目賀田** 設計士としてもキッチンには特に気を使うため、ペットゲートで囲うなど立ち入りを制限するようにしています。誤食防止に関しては、小物を片付けられる収納をつくることも一つの方法かもしれません。飼い主が知らないうちに誤食してしまう場合もありますよね。

**塩谷** 食欲がない、吐くなど胃腸の症状が出て気づく方が多いようです。ちなみに、毒性のある花や観葉植物を食べてしまうケースも少なくありません。どの植物が安全か明確でないため、猫や犬の行動範囲には極力置かない方がいいと思います。

**目賀田** 何が危険かを把握した上で、その要因をあらかじめ取り除くことが大切ですね。また、猫や犬は快適性も大事なポイントになるため、なるべく静かな環境にケージを置けるよう配慮しています。部屋の隅など落ち着いた空間で、かつ家族の気配を感じられる場所が安心できるようです。

**塩谷** ずっと同じ場所にいると疲れてしまう場合もあるため、2カ所以上居場所を設けると効果的だと思います。あまり人が来ないエリアにもう一つの居場所をつくり、気分に応じて行き来できるようにするのがお勧めです。

### お留守番の際は「室温」に注意

**塩谷** お留守番をさせる時は、周囲の危険要因を取り除いてから外出してほしいと思います。あとは水があるか、室温が大丈夫か。特に夏場は熱中症の危険があります。

**目賀田** 今は法令で24時間換気設備の設置が義務化されていますが、それでも心配ですね。以前手掛けた事例で、猫用スペースを陽当たりの良い場所につくったケースがありました。冬は暖かいですが夏は不安なので、隣接する居室と可動ルーバー付建具でつなぎ、エアコンを共有できるようにしました。心配な日はエアコンをかけて出かけるなど、気温に応じて調整していただいています。

**塩谷** 人間が大丈夫でも猫や犬は大丈夫とは限らないため、注意するに越したことはないですね。猫も犬も寒さには比較的強いので、冬は屋根付きのハウスやもぐれる場所を用意しておけば問題ないと思います。

### 猫や犬の老化のサインとは？

**目賀田** 近年は猫も犬も長生きになっていますが、老化はいつ頃から始まるのでしょうか。

**塩谷** 一般的に7歳を過ぎるとシニアと言われ、あれっと思うことが増えてきます。体つきが変わったり、素早い動作ができなくなったり。最近では長寿命化に伴い、以前は見られなかった口腔の病気がんなども増えています。

#### 老化のサインと老化に伴い増える病気

老化のサイン

- 筋肉が落ちるなど体つきが変わる
- 動作が鈍くなる
- 白髪が増える
- 爪とぎをしなくなる など

増える病気

- 心臓、腎臓、関節、口腔の病気
- がん、認知症 など

**目賀田** 家づくりの面でも、猫や犬がシニアになった時のことを考えて、段差を緩やかにするなど配慮しています。目が悪くなってくるため、若い時に覚えた家具の配置を変えないのも一つのポイントかもしれません。

**塩谷** 確かにシニアになると環境の変化が負担になります。長距離移動もストレスになるため、外出や旅行は基本的に控えた方がいいですね。



### 一生を終える、その時まで

**塩谷** 歳をとると、猫も犬も認知症に似た症状が出てきます。日中寝ていて夜になると活発になったり、部屋の隅に頭を押し付けたり（Uターンできない）、トイレの失敗が増えたり。こうしたサインを早めに見つけて、もう一度トイレトレーニングをするなどサポートしてあげなければなりません。子猫・子犬の時のように、名前を呼んで、触って、褒めてあげるといったスキンシップを増やすことも大切です。

**目賀田** 人と一緒ですね。家族が認知症になると同じで、できていたことができなくなるとイライラも増えるでしょう。でも「今までありがとう」という気持ちを込めて、また赤ちゃんに戻ったという気持ちで接するわけですね。

**塩谷** 人間の側が高齢だと、大型犬の介護は難しいかもしれません。これから飼う方は、猫や犬の最期のお世話ができるかまで考えて、本当に飼うか、猫種・犬種はどうするかを選んでほしいと思います。

**目賀田** 住まいにできる工夫ももちろんありますが、一番大切なのはやはり人間側の気持ちだと改めて感じます。猫や犬と毎日を、一生を過ごすイメージを家族で共有した上で、家づくりを考えていく。私たちは住宅のプロとして、そのお手伝いができればと思います。

**塩谷** ダイワハウスの猫と暮らす家、犬と暮らす家を拝見して、ここまで考えられているのかと驚きました。猫も犬も、そして人も心地良い暮らしのために、ぜひ住宅の側からもサポートしていただきたいと思います。

(敬称略)

## まとめ



1 猫や犬を飼う前に、  
本当に飼える環境かを  
もう一度考える

2 室内における危険を知り、  
その要因をできるだけ取り除く

3 シニアになったら、  
もう一度子どもに戻ったような  
気持ちで接してあげる